

外資ホテル、地方に照準

外資系ホテル大手が日本の地方都市を軸にホテルを拡充する。米ハイアット・ホテルズは10年後までに10〜20軒の開業を目指す。米ヒルトン・ワールドワイドも「今後10年で10軒を開く可能性がある」とある。これまでは東京や大阪など大都市が中心だった。地方で増え始めた訪日外国人の需要を、世界で培った接客や運営のノウハウを生かして取り込む狙いだ。

ハイアット、10年で10〜20軒

や大阪、京都が大半だったが、リピーター客が増え、JTBなどは地方ツアーの売り込みを強化している。外資ホテル大手は世界展開する会員カードの優遇などを活用し、



訪日客需要取り込む



「ハイアット・セン東京・銀座・東トリック」の完成イメージ

外国人を地方へ呼び込む考えもある。ハイアットは東京や大阪など大都市を中心に日本で10軒を展開している。2018年、東京・銀座で、日本では初めてのとなる観光客やビジネス客向けの新ブランドホテル「ハイアット・セント

リック」を開く。今後、金沢、鹿児島、広島、神戸といった地方都市で、セントリックなどのブランドのホテルを開業することを検討する。地場などのホテル経営者から運営を受託したり、自社ブランドでフランチャイズ展開をしたりする。日本ハイアットの阿部博秀副社長は「ホテル周辺の商業や文化、芸術施設と連携。街の玄関口をめざし訪日外国人需要を取り込む」と述べた。ヒルトンは東京・大阪、名古屋などで合計12軒を展開している。7月、沖縄で上級ホテル「ダブルツリー・バイ・ヒルトン那覇首里城」を開く。今後、広島や長崎、札幌などで、客室数が比較的小

規模なダブルツリー・バイ・ヒルトンのほか、高級ホテル「コンラッド」の開業を検討する。米スターウッド・ホテルズ・アンド・リゾーツ・ワールドワイドは昨年、北海道で3カ所を開業した。沖縄でも6月に開く予定。訪日外国人人気のリゾート地で、拠点を充実させる。英調査会社のSTRグローバルによると、訪日外国人の増加などを受け、15年1〜11月の国内ホテルの稼働率は83・9%だった。客室平均単価は同時期に前年同期より13・1%上昇した。ただ、大都市でほぼ満室が多いのに対し、地方は稼働率が60〜70%のところも目立ち、外国人比率も低い。

今後、訪日外国人が増えれば、地方でも大都市のように稼働率が高まる可能性がある。一時期ほどの円安ではないものの、20年の東京五輪へ向け、訪日外国人数は高水準で推移するとの見方が強い。ヒルトンのティモシーE・ソーパー日本・韓国・ミクロネシア地区運営最高責任者は「中国経済の不調がかわれるが、中国からの旅行者のボリュームは大きく、訪日客需要を支える」とみる。一方、地方でホテルを展開する日本のホテル大手は、外資との新たな競争にさらされる。日本的なサービスにより磨きをかけるなど、競争力強化策も求められそうだ。